京交山岳部報

No. 380　　'84　6月号

〔第１４９０回例会〕 坂井久光氏、山下周道両名誉部員還暦お祝い登山

半　国　山　（R）

日　　時　6月3日（日）　8時３０分　西京極体育館前集合

備　　考　前号予告を変更いたします。マイカーで行きます。

〔第１４９１回例会〕 利尻トレーニング　第３回

比良　ロノ深谷　（T）

日　　時　6月10日（日）　7:00 三条京阪 京都バスのりば集合

担 当 者　本局　鷲見敏一（TEL 3418）

備　　考　各自、わらじ 必携のこと

〔第１４９２回例会〕

若　杉　山　（へそのない山）

日　　時　6月16日（土）～18日（月）　16日早朝出発予定

コ　ー　ス　16日　京都南一院ノ庄－R179号－三朝町田代…▲1073m…田代公民館泊

17日　若杉山とあさじ山▲1120m…奥津温泉泊

18日　三ケ上▲1635m　三ケ岳・1121m…奥津温泉で汗を流して往路帰京

担 当 者　OB　伊藤潤治（TEL 463-4936）

備　　考　丁度1年ぶりに再行します。温泉でゆっくり楽しみたいと思っています。

今月の集会

6月12日（火）　下鴨寮

企画運営リーダー会

6月22日（金）　大倉宅

〔第１４９３回例会〕　３５周年記念登山

北ノ山　利尻山から旭岳へ　（T）

日　　時　　6月29日（金）～7月3日（水）

行　　程　　第1日　京都ー大阪ー北海道小樽港～（夜行船）～沓形

第2日　沓形…利尻山…長官山…ポン山（B.C）

第3日　鴛泊～香深～稚内ー旭川

第4日　旭川ーロープウエー…旭岳…層雲峡（泊）

第5日　層雲峡ー旭川ー札幌ー大阪ー京都

担 当 者　　高速　岡田茂久　C.L　鷲見敏一　S.L　吉田　武、山元誠一

備　　考　　３０周年に南九州の屋久島についで、今回（３５周年）は北海道の山に行きます。

山声雪語

自然保護憲章の精神を全登山者に

岡田茂久

『自然は人間を初めとして生きとし生けるものの母胎であり、厳粛で微妙な法則を有しつつ調和を保つものである。…しかるに我々は、いつの日からか、文明の向上を追うあまり、自然のとうとさを忘れ、自然のしくみの微妙さを軽んじ、自然は無尽蔵であるという錯覚から資源を浪費し、自然の調和をそこなってきた。この傾向は近年とくに著しく、大気の汚染、水の汚濁、みどりの消滅など、自然界における生物生存の諸条件は、いたるところで均衡が破られ、自然環境は急速に悪化するにいたった。』昭和４９年に制定された環境庁自然保護憲章の冒頭のことばである。

この春京都北山において、野生の鹿やカモシカまでもが十数頭餓死体で発見された。いくら豪雪であったとはいえ異常である。野生の生物がそう簡単に餓死するものであろうか、おもうに国の森林化政策により森林の針葉樹化がすすみ、本来の食物である常緑の広葉樹や下生えの樹木の消滅に起因するものではないであろうかと推測する。又比叡山では本来野生食であるべき猿がその生活環境の変化より自己で食物を調達できず、民家に侵入したり観光バスに群がって食物をねだっている餌付けの結果であろうか罪なことである。

世界的にみても地球の砂漠化の比率が進み、特にアフリカのサバンナ地帯における飢餓の惨状は目をおおうものがある。これももとはといえば本来遊牧民であった原住民を定着させるためにとった牧畜政策にありその家畜たちが草木を食べ尽したことに遠因があるという。世界の穀倉地アメリカにおいても農地の砂漠化が進行している。合理化された機械的な農業法により肥沢だった表土が洗い流された結果とも聞く。

環境破壊の元凶としてのゴミ処理にしてもその対策は遅々として進まない。山野においてもその

思想の貧しさをあざ笑うように〝ゴミは持ち帰ろう〟の立札の前にゴミが山積みとなっているのが現状である。これは国内だけでなく世界各国の登山者が集中するヒマラヤでも例外ではない。
ネパールヒマラヤのエベレスト周辺の状況は近年よく耳にする。特に各登山隊がＢＣを設営するクンブ氷河の５４００ｍ地点はすでにゴミの山と化してヘリコプターの残骸までが放置してあるというこのためネパール政府はヒマラヤの入山料を２倍とし、この増収分でゴミ処理対策費にあてる案を検討中であり、インドヒマラヤでは〝ヒマラヤ汚染防止条例〟を発行する意向を表明し、ナンダデビィ山群を５年間入山禁止区域として一切の外国登山隊の入山を認めない措置を実施した。
ゴミ公害の問題の他もう一つの大きな問題は、トレッカーや登山隊がキャラバン途中の燃料としてポーター達が切る森林の乱伐問題がある。かって豊かだったエベレスト街道沿いの森林は壊滅状態にあるといい、そしてこの被害はいまやヒマラヤ全域に及びつつあり近い将来この地帯がサバンナ化するのもあながち杞憂ではないという。

自然保護憲章はつづいていう。『この状態がすみやかに改善されなければ人間の精神は奥深いところまでむしばまれ、生命の存続さえ危ぶまれるに至り、我々の未来は重大な危機に直面するおそれがある。今こそ自然の厳粛さに目覚め、自然を征服するとか人間に従属するとかの思いあがりを捨て、自然をとうとび調和をそこなうことなく節度ある利用につとめ、自然環境の保全に国民の総力を結集すべきである。』と結んでいる。

この世界に誇る自然保護憲章を空文化するのも実のあるものにするのも我々自身の意識の問題である。自然保護憲章の精神を全地球的な視野のもとに育てあげるのが次の世代に対する我々に過せられた責務ではないであろうか。そのためには我々登山を愛好するものがまず立ち上がり世間を啓蒙するのも重要なことと考えるが、現状はまことにお寒いかぎりではある。

第１４８２回例会　　３５周年記念登山

残雪の大江山集中登山

Ａ．普甲峠コース

井　戸　澄　夫

４月１４日（土）ＰＭ３：００　西京極体育館前に集合。鷲見さんの車に鷲見夫妻と私の３人、田中さんの車に田中夫妻と娘のめぐみちゃん、そして辻さんの４人が乗って、計７人の出発であった。国道９号線を北へ向けてひた走る。車の流れはスムーズで、沿道の桜を楽しみながらの快適なドライブであった。福知山で国道１７５号線に方向を変え、山の中のジグザグ道を登りつめたところが普甲峠であった。

今回の例会は。京交山岳部３５周年記念の一環として、残雪の大江山を３つのコースから集中登山しようというものである。何故この山が選ばれたかは小生の預かり知らぬところであるが、小生にとっては未登の山であり、なかなか行きにくい山でもあるので、喜んで参加させていただきました。大江山といえばすぐに思い出すのが、鬼の伝説である。といってもうろ覚えなので、少し文

献をひもといてみると、大体の内容は次のとおりである。

「越後の国で生まれたといわれる酒呑童子は、幼い頃から乱暴者で放浪の末大江山に住むようになった。そして夜な夜な京の都へあらわれ、娘たちをさらっては血をしぼりとって飲むのであった。これを憂えた天子は、源頼光らに命じて酒呑童子を退治させたという。」大江山は、又地質的にも興味深いものがある。大江山を形成する岩石は蛇紋岩と呼ばれ、地下深い上部マントル層から上昇してきたものと考えられており、非常に珍しいものである。岩質は黒くて重く、主として輝石、カンラン石で構成されている。閑話休題。

さて、普甲峠にはＰＭ６：００に到着した。峠の東面の尾根はスキー場となっており、既に雪はなく、スキー場も閉鎖されていた。この峠には宮津市の大江山ロッジがあり、今晩の我々の宿である。ロッジの管理人さんが待っていて下さり、すぐに手続して部屋に入る。今日の泊りは我々だけで少々心細い思いをする。ロッジからは宮津湾が一望に見渡せ、あいにく曇り空なのでわからないが、夕映えの美しそうなところである。夕食は宮津市内で食べることにし、車に分乗して山道を下る。このあたりは鷲見夫人の生家があり、御母堂が健在であるとのことで、今夜はそちらで泊られるとのことである。折しも春祭りの最中で、道路沿いに山車や提灯が飾られてにぎわいを見せていた。鷲見夫人から幼い時の思い出話を聞かせて頂き、雪に埋もれた農村風景に思いを馳せた。宮津駅前で鷲見夫妻と別れ、田中さん一家と辻さん、そして小生の５人で食事をし酒肴を買込む。ロッジへの帰りは高度が上がるにつれて、宮津市の夜景が眼前に拡がり、遠く海がどんよりと黒く横たわっている。その夜は５人が一室に集まり、夜更けまで飲んだ。

翌朝は６：００に目が覚めた。ロッジの管理人さんが早々と来て下さり、コーヒーをいれてくれた。コーヒーを飲むうちに、鷲見夫妻が到着し、皆に昼食用の大きなおにぎりを提供してくださった。期待していたとはいえ、さすがにうれしかった。

普甲峠を７：２５に出発した。２台の車で５８４ｍの無線中継所までいくつもりだったのだが、出発して間もなく雪の中であえなく車は沈没してしまった。尾根筋にかなりの雪が残っているのは、昨日から分かっていたが、アスファルトの舗装道路にまでこれだけの雪が残っているとは、田中さん鷲見さんもさすがに思っていなかったようだ。チェーンを装着しても進むことができず、とうとう車を捨てて歩くこととなった。雪のはりついた立派な道路をとぼとぼと歩き始めたのであるが、配布された５万分の１の地図には、道路は５８４ｍ地点までしか記載されていないのに、それらしきところをすぎても、まだ延々と続いているではないか。これはどうしたことだと、だらだらとあてどなく歩いているうちに、とうとう７４０ｍのピークまで来てしまった。そこには運輸省大阪航空局の標識ともアンテナともとれるような巨大な円形の平らな構造物ができており、舗装道路はこれを作るために設置されたようである。とにかく、時折太陽が姿をみせたこともあり、ここまでくるのにかなりの汗をかいた。時計をみるとすでに９：００であった。ここからは鍋塚、鳩ケ峰、大江山の連山が望見でき、雪をかぶった姿が印象的である。他のパーティーと無線で連絡がついた。岡田部長のパーティーはすでに鳩ケ峰にさしかかっている。

ここから先は快適な尾根歩きである。残雪のサクサクと鳴る音が心地よい。７４０ｍのピークを少

し下ったところに酒呑童子の伝説を記した案内板が立っており、鷲見夫人がここいらが鬼の岩屋といって酒呑童子が住んでいたところだと教えてくれた。さらに下ると小さな小屋があり、そこが加悦青少年山の家から登ってくるコースとの合流点であった。ここから鍋塚へ向けて登る。めぐみちゃんは元気に先頭を歩いている。辻さんも元気だ。一気に登って鍋塚頂上（763.0m）に到着した。鍋塚から20分程下ると鳩ヶ峰との鞍部になる。ここまで千丈ヶ原からの林道がきており、立派な小屋とトイレまで設置されている。千丈ヶ原から登ってきたとおぼしき多数のハイカーが鳩ヶ峰めざして登っている。我々も負けじと張り切って登る。鳩ヶ峰の山頂は大にぎわいであった。大江山の山頂に人影が小さく見える。我が京交山岳部の仲間であろうかと思われる。少し下ってから大江山（千丈ヶ嶽）への登りとなる。ゆっくりと踏みしめて登っていくと、おなじみの顔が見えてきた。「ヤー　ヤー　ヤー」小生達のパーティーが到着して全員がそろう。

〔コースタイム〕

14日（土）　15:15 西京極ー（車）ー16:30～16:40 須知ドライブインー（車）ー18:00 普甲峠

15日（日）　7:25 普甲峠ー（車）ー8:20 大江山無線中継所手前…9:00～9:05△740…
…9:15～9:20 鬼の岩屋…9:40 鞍部（加悦への分岐）…10:00～10:10△鍋塚763…10:39 鞍部（千丈ヶ原林道終点）…11:00～11:05△鳩ヶ峰746…
11:35 大江山頂他パーティーと合流

このコースの〔参加者〕　田中F2、鷲見F1、辻、井戸

B. 千丈ヶ原コース

石田　弘

3月の貴船山に参加して雪山のすばらしい体験をしたので今度の集中登山は、集合時間も早くとても滋賀の山里より馳けつけるのは無理とパスするつもりが、同室の松井氏にやいのやいのと誘われ東海道線の1番電車に飛び乗る羽目となった。やはり、前日の職場対抗ソフトボール大会名残りの痛さが身体の各部に感じられた。年令ですね。

京都駅まで迎えに来てくれた津田氏の車に同乗し、集合場所の西京極に到着。前夜出発組を除き集ったメンバーに挨拶を交す。曇ってはいたが、雨の降る心配のない国道9号線を同乗の原田さんよりいただいた寿司を朝飯抜きの腹に放り込みながら一路目的地へ向けひた走った。いつもの事ながら岡田部長の道の詳しいのには驚く次第である。途中別コースを登る大槻氏、ファミリー等と別れ、我々はアゴと腹の出た人向きのコース出発点千丈ヶ原へと進んだ。近付くにつけ道のところどころに見えはじめていた残雪が遂に林道一杯になり行手を阻んだので車を降りて歩行することになった。各自が登山スタイルとなり雪解けの林道を歩きはじめた。その一群の中にあって一際目立つ真赤なプラスチックの登山靴があった。水たまりであれ、泥道であれ、ドンドン歩いて行く松井・渡辺両氏である。その自信に満ちた背中を見ながら後を歩いている私は、義経の八艘飛びやないが右に左に道の良いところを選んでの歩行となる。靴の差ですね。林道より別れ登山道へ入る。泥ん

こで歩きにくいが疲れるほどもなく林道終点の鞍部へ着いた。空腹を見透かれたように軽く食事をするようとの許可が出た。地獄に仏である。無線で前夜出発組と交信し、双眼鏡で歩行しているのを確認する。愚図愚図していると追い付かれそうである。元気の出たところで鳩ケ峰へ向って出発残雪が多く雪上歩行となる。約２０分ほどで尾根についた。立派な自動車道や加悦の町並みが見渡せた。これよりアイゼンを装着し雪庇上のところをしばらく登るが、雪解けの登山道が傍に現われてきたので、すぐに外すことになった。新品のアイゼンを持参した方があったので試用したまでと後で判明する。道も次第に急な登りとなり、額に汗をにじませ喘ぎながら登ると勾配が急にゆるやかになり標柱の立っているのが見えた、千丈ガ岳の山頂である。

展望は広く３６０度にわたり丹波の山並みがよく見え、三角点は道のやや左寄りにあった。既に別コース組の大槻氏等が到着しており食事中であった、我々も昼食となる。疲労回復液を喉に流し込んだ時の気持は表現のしようがないほど感激するもので、酒呑童子の気持が判るようになるから不思議なものである。待つほどもなく途中双眼鏡で確認した普甲峠コース組の鷲見さんたちが到着。全員が揃ったところで記念撮影をし再び各コース別に編成替えがあり、別々に出発した。私は正面に見える赤石岳下りルート組に入る。雪上をしばらく下ると林の中に稲荷への道との分岐点へ出た右に進むと赤石岳への道である。山腹を巻くように進む頃から雨が降り出し傘をさす。余りひどくもなく約４０分ほどで双峰スキー場に出た。昔は京都から丹波の国分寺への公道の峠であったらしい。展望台の休憩小屋にザックを置き身軽になって、岩のゴロゴロした道をたどる。突然向こうの山で雷鳴が轟き、尾瀬を思い出してイヤな気持になり、追われるように喘ぎ喘ぎ登るがなかなか山頂に出ない奥の深い大変しんどい山である。三角点についた時はもうヘトヘト！　残雪を口に含む冷たくておいしい。案じていた雷も遠くへ去り、バンザイ三唱の後、下りは足元に注意しながら再び双峰スキー場へ戻る。山河（山の家）にて休憩の後、用意の車に分乗し快適な国道１７６号線を走行し集結場所に着いた。今回もまた雪山の醍醐味を満喫し、終ってみれば参加してよかったと感じた次第である。

〔コースタイム〕

西京極 6:05 ー（９号）ー（１７３号）ー綾部ー大江ー千丈ケ原 8:20 ～ 8:35…林道終点（Ｐ６４１m）9:30 ～ 9:50…鳩ケ峰（Ｐ７４６m）10:10 ～ 10:30…千丈ケ岳 11:05 ～ 12:10

（稲荷別れ ー峠ー赤石岳ー双峰スキー場跡、鷲見氏より連絡あり）

千丈ケ岳 12:10 出発…千丈ケ原スキー場 12:50…赤石岳頂上 13:30…山河（山の家）14:15 ～ 14:35 ー大江町 15:15

〔千丈ケ原ルートパーティメンバー、　１０名〕

岡田、津田、松井、石田、渡辺智、和田、方山、原田、荒田、奥村

〔赤石岳下りルートパーティメンバー　１０名〕

鷲見×２、石田、渡辺、方山、原田、津田、荒田、辻、奥村

近藤　薫初代部長表彰される

京都府体育協会スポーツ功労賞を山岳部門の功績により、来る４月２９日に受賞されました。部員各位と共にお祝い登山を計画していますので、その節はご協力方よろしくお願いします。

C. 双峰コース

古市昌造

天気は晴、今日の山行３５周年記念集中登山我が伝統ある京交山岳部の行事に参加出来、感激。バンザイ!! 早朝出発なのが多少難だが参加者全員ニコニコ顔？ めざすお山は「昔丹波の大江山」赤鬼・青鬼、はたまた女鬼がいり豆持参でご体面てな気分、だが今年は例年にない積雪でスキー登山も可能との事、参加するにはいの一番、スキー登山と思い、３コース（普甲峠・双峰・千丈ケ原）の中より登りの双峰。下りに普甲峠コースに参加と集会の日に決定していたが、前日になりスキー登山不可能の連絡が入り残念、だが好きな山行、楽しいドライブ（今回多少カミカゼ）初めての大江山ワクワク気分、国道９号北上綾部経由河守より２手に分かれ、めざす双峰コース山河へドライブ登山をし「加悦青年山の家」着、山の家の人と朝のご挨拶と車止のお願いをし、身仕度をする。当地うす曇り、風強し。

出発８：３６ 各コース無線交信だがキャッチ出来ず、めざす「大江山」を左に見、先では正面の「赤石ケ岳」めざし赤石寄の鞍部へと熊笹と多少の残雪をふみしめ各自思い思いのコースを取りながら稜線まで直登す。雪があれば最高のゲレンデ、眺めも素晴らしく尾根に出ると南斜面に雪尾根道の縦走路を右に取り笹原・ガラ場・残雪とバラエティに飛んだコースで足元の鹿のふん見ながら急登し、赤石ケ岳に３６０°の大展望三角点で先づは山岳部の恒例「バンザイ」三唱、各コース共山上めざし無線交信で元気な声が飛ぶ。赤石ケ岳より縦走路を引き返し正面の大江山と地図とを見比べルート研究しながら下る。峠より植森地帯に入るとウグイスが鳴き、今冬の大雪の為木々があちこちで途中で折れ、冬山のおそろしさを見せつけられた様だ。このコース、山全体を眺められ比較的整備された縦走路で展望も開け緩急斜面も適当で非常に楽で１本立てる事もなくきたが、各コースの状態よりピッチが早いので残雪上のくぼ地で風よけし、１本立てる。小鳥の声を聞きながら、もうすぐお山も春とのんびり気分でわいわいがやがやファミリー談議。

無線交信も山上間近で各コース共急ピッチの様子、リーダーより山上にて昼食をしながら各コースの到着を待ち、残雪、うす日、多少風有でも日なたぽっこ、いつもの楽しい食事。千丈ケ原コースの人達も山上真下の階段を急登中、上よりヤッホー、ヤッホ、普甲峠コース、鳩ケ峰山上ヤッホー、ヤッホー、手を振って合図。集中登山の楽しさ、気分最高。おや？ 赤・青・トラトラ・月光仮面の美男美女、「鬼のせいぞろい」 記念写真、バンザイ三唱もそこそこに下山コースの班の再編成、ロングコース普甲組に大槻リーダー、姉嬢上島、Ｆと私、予定所要時間２時間３０分約７Ｋｍのマラソン下山。出発１１時４３分、先づ鳩ケ峰目指し急降下。野兎の様な大槻嬢をペースメーカーに平均年令４６才の若人３人と上島Ｆ、このコース、登りの時より残雪多く降り易い。時々ふりかえり「大江山」を見る。

鳩小屋を過ぎた時より雨と雷ゴロゴロ山上で騒ぎすぎたので鬼達のお返しかも、鍋塚の上では強風雨、ますますハイピッチで下る。鬼の岩屋、山の家より雨・風共に上り、無線交信でも各コースも快調の様で小休止することもなく通過する。航空磁台よりの大江山の眺めは、さすが鬼の住む深

山でよくここまでハイビッチで来たもんだと感心し、残雪残る車道を普甲峠の車止まで歩きつづけ1時55分着。千丈ケ原コースはすでに到着。双峰コースは赤石ケ岳登山中、無線交信で千丈ケ原コースの岡田リーダーより鬼の茶屋附近で休憩中、合流せよとの指令。デポ車2台を発車させ、途中合流し最終集合地、河守へ急ぐ。残雪・強風・横なぐりの雨、雷・快晴と今日1日の天気変りの早さに驚き帰路につく。

後日の参考までに若人？のコースタイム

山河、加悦山の家 8:36…赤石ケ岳 9:07…峠 9:34…大江山 10:48～11:43…鳩ケ峰 11:55…鍋塚 12:25…航空燈台 13:16…普甲峠車デポ地点 13:55

双峰コースメンバー

チーフリーダー　大槻副部長、　大槻F3、上島氏F1、古市　　計　7名

山癖雑記　二三

伊　藤　潤　治

白石山（山上ケ岳）

正月二日、奈良の孫を送りその足で吉野の山に登るべく孫を送っていくと、息子の家では、今晩は酒盛りをして明朝からお出かけやす、とすすめる。その酒盛りはありがたいのだが、酒盛りは酒盛りでも今晩は焚火のそばで一人静かに飲みたかったのである。黄金の御殿やいうても正月早々から野宿とは情けないやおへんか、などとくどかれたが、振り切って天川村山西に至り道端で天幕を張る。しかし焚火は余地がとぼしく既に23時でもあり割愛した。

天幕はゆとりをぜいたくと感じさせる四人用、私はうらやましがられたいほどの歓びにひたりつつ、かんの酒のうまさに盃を重ね、ご機嫌になっていった。けれど盃を持つ手は冷たかった。ガスを燃やしても焚火ほどのぬくもりはない。やがて持物から孫の風邪薬が出てくる。忘れた責任はなくとも届ける義務は負わねばなるまい。おかげで振り切ってきた今晩の行動までが、あくせくしていたように思えてきた。しかし私は唐笠山と白石山を登らねば帰らぬつもりで、その夜は寝た。

三日は、鶏鳴で目が醒め明るくなってそこがちょうど白石山南尾根の端である事が分った。白石山に向け吊橋をもつ右岸の五軒ほどの山西の里へ渡り登路をたづねると、道はないとのみで、なぜか家内にあって教えてくれなかった。だがここは、植林王国のまっただ中であり、どこにでも作業道くらいは走っている筈だから私はその辺りの踏跡を拾って登っていった。

始めは水槽へ生活用水をひくための道のようであったが、やがて推察どおりの作業道になる。尾根が近づくと雪深くなり、・944mからも尾根道があった。白石山（Ⅲ△1119.7m）の標石は、雪にうもれていたがその所在はすぐ分り、10時10分であった。懸念した事は何一つなく、落花のような雪と緑の美林の中の△にめでたくたどりついた。これが私の白石山登頂である。

そばに「航空標識」と「天川村道路台帳図作製用」のため、昭和59年4月までの保護要望の表示板があった。往路を無事下山。雪が途中で雨になり意外にぬれてしまった。このまま唐笠山に登りたくない、登れば着換えに困る。結局、孫の風邪薬のこともあり、唐笠山を残して帰った。ところが翌四日発熱、家内は山でのうてよろしおしたというていたが、山におったら熱なんか出るもんですか、そうですね。

雪彦山　（山崎）

美女という名の山があるのだから、美男という名の山もあるかも知れないと思って探してみたのだが、美男という名は山も岳も見当らなかった。これは、元旦に美女山を登ったのに対して男の山も登りたいと思いついたためである。ちなみに「美男」とは、「広辞苑」によると「容姿の美しい男」　この形容は歌舞技や演劇界の人たちを指しているようで、まだ武骨にも女人禁制のお山が現存しているお国柄だから、美男というのは山岳には不向なのかも知れない、と思った。

それで私は、美女山に対する男の山として、播州の雪彦山を選んだ。雪彦山といってもこれは、洞ケ岳、鉾立山、三辻山の総称だといわれている山名である。私は三辻山△916m、洞ケ岳・884m、ウリユウド△866mの三山を予定して出かけた。賀野神社奥宮に上って洞ケ岳のそそり立つ岩峰を賛嘆したまではよかったのであるが、三辻山に向おうとすると、その日三辻山は猟師たちが狩場として独占したいため彼等にうまく脅かされて三辻山を断念。それではと、雪彦山の主峰とうたわれている洞ケ岳コースにつく。道面は歩き辛いゴロゴロから急登にうつり、不動岩、一の覗き、奥宮が真向いに展望できる行者堂跡を経てゆるやかな植林尾根から南面に廻るといい陽だまりがあり、のんびり昼食をとる。すぐ上部が巨大な出雲岩。そのゴッツイのに感心して裏に廻りこむと、鎖をつるした岩場、この上が覗き岩、せり岩とあり、以後積雪下の岩また岩がつづき、ほいほいとは進めず緊張の連続で慎重に登り詰めると、小祠が建ち高度感のある洞ケ岳頂上。そばに大天井岳884mの標もあった。

次はウリユウドの番であったが、ここにきて地形図の雪彦山註記地点にⅣ△915mのあることを知った。その位置には本峰的風格があり、たとえ△がなくてもこの峰を登ってこなくては、雪彦山を登ったと広言できない気がした。それと三辻山を登っておらぬのに思わぬ時間を喰っていて、本日の三山登頂という予定は無理であることも分った、等で、ウリウドは割愛することにして洞ケ岳を滞頂わづかにして雪彦山に向った。約10分で鹿ケ壺分岐。ここから空身の登行にうつる。当初は藪と雪の困難を予想させていたが、初めのコブを越すと、人と犬の往復したささやかな踏跡が、さわやかな植林内や尾根にとつづき、快適に登れた。

しかし辺りは笹と雪ばかりで△不明、不覚にも地形図までデポしてきたらしいので、第二峰かも知れないと行けば、まだ奥にある峰が高そうだと迷っている時近くで人の呼び声があった。行ってみると若者と犬が焚火をしていた。彼から地形をきいて△は第一峰を探せばよいと分り、登りかえしてみるとやはりちゃんと△は第一峰にあった。いささか泡を喰ったが、このめでたい場面に乾盃用までデポしてきていたのには、ただ、ぼう然。デポ地に戻って△をなつかしみ、よろこびの盃を

味わう。満悦の思い一パイで下山についたが、たちまち雪の岩場でありのんびりムードは吹飛んだ。鎖は凍結または氷結していて危険でさわれず随分冷汗をかいて虹滝についたが、これでコースが一方通行である理由もうなづけた。

美女山に対する男の山雪彦山は、実に雪よ、岩よ、で男らしすぎるほどの山であった。帰って調べると、Ⅳ△は、雪彦山（点名）であり、更に満足、よろこびがこみ上げてきた。

1月8日　西大路駅 6:30 ー中国・加西ＳＡ 7:57 ～ 8:20 ー賀野神社奥宮 9:05 ～ 9:30 …洞ケ岳登山口 10:30 …洞ケ岳 13:15 ～ 13:25 …雪彦山 14:35 ～ 14:45 …虹滝 16:20 …登山口 16:58 名神京都東 19:15

同行　河村敏夫君

甲斐と駿河の山

その一　浜石岳

浜石岳（吉原図）の頂きでの荘厳な日の出を期待して、1月14日3時すぎ東名高速、清水ＩＣを出てＲ1号線を興津にきて、Ｒ52号線を北上し和田について登山口をあちこち入って探したが暗くて分らず暫らく途方にくれた。ようやく早起きの人がでてきてくれて車での道を教えてもらったのだが、それでも闇の中の未知の地を行くのは、実に大変だった。みかん山を縦横に延びる作業道なので迷い込んで無駄骨を折ったが、4時45分には浜石岳（125分）コースに踏みこめた。

照明には、コンロとカートリッジが共同できる「ポケットランプ」を試用してみたが、登行には不向と分った。ランプの光が顔を照しまぶしくて前方の視覚を妨げ視界を漠然とさせてしまう。やがてランプの為だけではないと思うが、標識の途切れと不審な道形になって暫らくにあった中部電力の送電塔巡視路を、第37号塔に上り詰める失敗をやった。変だナー、あの先は下っていたからどこで踏み違えたのだろうと考えながら岐れに戻って調べると、駄目だと思ったあの先は、一時は下るが道はちゃんと山ヒダの向うへ続いていた。だからこれは錯覚か早合点というべきかも知れない。あるいは自分の判断を私は疑わねばならなくなったのだろうか。

コースをどんどんたどって尾根をまたいで下ると、「頂上へ40分」の標があって明るくなり、ランプの灯を消し急坂にかかり、ロープを固定した急坂を上ったが、まだ頂上は遠かった。やがて左にやせた松林、右にカヤ原の反射板が現れた道を登っていくと、一歩ごとに富士山が正面へでっかくせり上ってくる劇的な登頂。たまらなくうれしくて思わず標石（Ⅱ△707.4m）に飛びついた。時に7時3分（日の出7時6分、大阪港標準）だった。

朝日の色が紅々と照り輝やくなか、富士山はなぜか黒っぽかったのだが、その巨大な眺めに圧倒され、また美しくまぶしい駿河湾の美景に心がしびれた。ふと、この山頂の冷気と寒風のきびしさに我にかえり、あわてて羽毛服を着用したのだが、どうにも居たたまれず、たのしみにして上った朝食もとれなかった。睡眠不足もあるかも知れないが、頂上で私がこんなに寒くて震え上ったのは珍らしい。

その二　高ドッキョ

当初は清水図葉で清水市コースからこの高ドッキョや真富士山などを登るつもりであった。けれど一ケ月が過ぎても資料がこないので1980年秋から手持になっている富沢町や南部町資料によって計画を作成したのである。その後に詳細なる資料をいただき、それを見ると、高ドッキョは興津川から徳間峠経由の方が快適そうであったのだが、既に十枚山や篠井山とともに登略は甲州コースに決定済で、清水市資料は遅着のためとはいえ、利用できず惜しくてならない。

高ドッキョのコースは、富沢町から石合より樽峠経由の登頂を推奨してもらっていた。私もそのつもりで南部図葉の富沢町にきたのだが、所要時間と距離を考えるとこれから推奨コースは、登頂を果たしても夜道の覚悟が必要だろう。それより富沢町は林道コースともに整備不足だからおすすめできないという徳間峠コースの方がこの場合は賢明であると確信し南又に入った。そして高ドッキョの道をたづねると、始めての人ではそれや一大変だ、とあきれられてしまった。しかしたとえ無謀だと批判されようとも本日はこのコース以外に安全登山の道はないだろう。

林道は荒れていたが植林であるために終点までほとんど歩かずに入れ、踏跡もしっかりしていた。その踏跡、始めはよかったが渓に出たとたんに消え、うかつにも作業道にのって左岸の植林内に迷いこむ。大ヘマ。その後も道のようで道でなく、道でないようで道であったり、現れては消え消えては現れるといの目まぐるしいコースであった。それでもほぼ予定時間に徳間峠へ上れた。徳間峠には小さい石仏が祀ってあった。富沢町の方はいじらしい藪であったが、興津川側は伐採後の明るい斜面が展開し、まめまめしい感じの道が上ってきて、いかにも峠らしい風景をつくっていた。

峠から小さいが露岩もある急登で赤岳913m峰。この辺は北面の展望がなかなかよろしい。登るに従って木立が視界を妨げるようになると、山頂への距離が妙に気になりだす。この徳間峠、高ドッキョ間は一時間の富沢町資料があり、あせらなくてもよい筈だが、速い日足に意識が刺戟されて気持に拍車がかかり目隠し状態がもどかしくなるらしい。展望の他は申し分のない道が高ドッキョ（Ⅱ△1,133.5m）につづき、空身であったが徳間峠から72分を費して登頂する。高ドッキョの山名は、高独居あるいは高突起を意味し、何か特異な景観を想像させるが、樹木におおわれた穏やかな感じの山頂であった。こういういわば何もないような頂きへ樽峠コースの他に石合からの新道らしきものをもち、高ドッキョは妙に思わせぶっていた。

1月14日　但沼町和田P 4:45…浜石岳 7:03～7:10…和田P 8:12…富沢町南又奥P 11:25
徳間峠 13:45…高ドッキョ 14:57～15:05…南又奥P 16:48

その三　下十枚山、上十枚山

15日も快晴に恵まれ南部町成島から西俣川に入ると凍結や積雪が路面にあって運転には緊張したが、剣抜林道を念願どおり十枚山登山口まで上った。横の流れで水を汲み植林斜面を登りだすとワゴン車が駐車して青・壮の二人連れも登ってきた。尾根筋に上ると湯井沢側だけ素朴な雑木林になる。その辺りに「つが尾根20分」の標があった。どこがつが尾根か気のつかぬ間に、東側足下から坊主斜面が現われ、一変して明るい視界がひらけ、そこにはまだら雪の山肌群と明日のお相手

篠井山の気取った姿や、左に皆伐跡を真白い雪が覆った大斜面をもち、右にブナを点在させているおおらかなる尾根の展望があった。コースもそこからは雪をくっつけた急な尾根登りにあらたまり雪上を踏む清々しい歓びが全身をつつむ。これが冬山を登る感動の一つかも知れない。背後に富士山が見えるようになるこの巨峰には無条件に賛嘆の声がでてしまう。「岩小屋まで２５分」地点での積雪は３０㎝を越え、この調子でいくと甲駿国境の雪量はどの位いになるのかいささか不安だった。けれど後続二人の元気な先行と、次に関の沢から越えてきた人のトレースや話に励まされた。

「岩小屋」を過ぎてから、下十枚山で幕営してきた１０数名の下山に会う。彼等は昨夜はすばらしくよい夜でしたが、今朝から風が出て目下猛列に吹いていますと話して通った。十枚峠につくと荒風で冷たかったが、積雪の少ないことや、関の沢からの若い女性グループ、家族連れなどにぎやかなのに驚く。風を避けて昼食、荷物をデポし、下十枚山（Ⅱ△１，７３２．４ｍ）に登る。峠の雪は少なかったが、下十枚山の自然林に入ると雪は深かった。山頂は、めぼしい露岩二、雑木群、「天津山（梅ヶ島中学）」標など重厚なる感じ、景観は空に不機嫌なおそろしい暗さがみなぎり、あいにくのものだった。ただ悲しかったのは笹を敷いたままの天幕跡だけ。峠にもどり甲斐、自然林、駿河、植樹の尾根を上十枚山に向う。このコースは日当りがよいためか、往来がはげしいためか、雪はおかしいほどついていなかった。

ゆるやかで可愛いい円頂に登りつくと、刈安峠向きに濃木帯はあったが、他には目をさえぎるもののない上十枚山（・１・７１９ｍ）の頂きであった。上十枚山は、雪上でも構わず午睡がしてみたく思わすなめらかな山肌であったが猛風にあふられ展望どころでなく、一瞬の滞頂であったのは残念でならない。風は下山でも吹き荒れ、さかんに雪煙をあげところどころで往路を消滅させていたあまりのことに私は、この風が明日の空模様に、どうか悪影響のないよう祈らずにはいられなかった。宿についたが入浴は温泉の故障で待たされた。ようやく、どうぞと案内があり浴室へ向ったが〝これでは風邪をひく〟と大不満の先客がでてきた。浴室では湯舟に半分しかない湯に、寒くて上れぬ残留客がいた。きょうは１５日正月と成人式などで混雑のようだが、こんな風呂に入れとは、よくいえたもんだとあきれた。

しかし汗をとるためには入浴は必要であり、私は寒さしのぎに浴漕で酒を用いることにした。そのど女中が様子を見にきたが、湯量はそのまま、湯温は下がるばかりであったが、流石に酒効、私は快適な入浴だった。文句はつづく。夕食でも固くて歯のたたぬ猪鍋や、賑やかな宴会の声、景気のよい隣席に閉口したが珍らしく気がほぐれ銚子を追加して、十枚山の登頂をじっくり自祝していた。やがて陶然として部屋に戻ると、真夏を思わす異常暖房が施されていた。苦しいので窓を開けそこで就寝したからか、飲酒運転をする飛んでもない夢をみる異状な宿だった。

１月１５日　船山温泉 8:45…登山口 9:00…篠井山展望 10:58～11:10…岩小屋 12:08…十枚峠 12:32～13:35…下十枚山 14:00～14:10…上十枚山 14:50～14:55…登山口 16:20

その四　篠井山

この山は南部町からでも登れるのだが、私は地形図が急坂で短かい尾根に岩記号と破線路を並列させている富沢町御堂のコースに心をときめかしてきた。この地にきてからの展望でも、険わしく筋骨隆々の雄姿をもって期待どおり私の胸を躍らしめた篠井山であった。

あれほど心配させた天気も、御神酒にこめた真心が天に通じたらしくて、この日は特に青く静かに澄んだ空であった。だから喜々としてはづみのついたのは云うまでもない。御堂のはづれで道が左右に岐れる山側に早くも「篠井山登山口（4Km約3時間）」の表示があった。そこはどうしたことか、地形図破線路の約1Km手前である。

この登山口は破線路との合流には疑問はあるが、間違いなく御堂コースだろう。身仕度中に数台の車が忙がしそうに左右の林道に入った。妙に急かされる気持で登山道に吸込まれた。深々と緑の茂った樹林の中を、ひっそりと縫う道の穏やかさに、たちまち心はなごみ幸せな気持にもどれた。「頂上へ3Km」の標の上部で、間伐作業の人が働いていた。これが先ほどの車の人達であった。「展望台」「頂上へ2時間」の標を通過。やがて雪が辺りを染め植林帯が終ると新雪を踏むトラバースにうつり、囲りに巨岩が壁状に立ち、谷間にも大小さまざまの岩が雪をかぶって転々とならぶ水呑沢につく。コースが尾根から谷に変ったような木立もある渓谷風景であった。

しかし水呑沢は横断路になっていたのと、涸谷なのかコースでは流水を見なかった。あと1時間の案内を見て水呑沢をたち、右へ右へとたどり、いくつかの急斜面が岩混りの尾根に成長し、高度が増すとともに足場は雪や氷できびしくなる。約1,240m地点で「0.5Km」と時間での表示が距離に変わっていた。コースもまた険わしい美景に変わり、私の心身も感激と緊張で冴えかえった。

慎重な足どりも軽るく痛快な歩みをつづけて、篠井山（ⅡΔ1,394.4m）へ登りつく。北峰には祠を祭り南部町コースが、南峰には鯨野コースが登ってきていた。気がつかなかったが破線路は幻コースのようだ。

駿河湾から高ドッキョ、真富士山、十枚山とたのしく見渡せたが、篠井山での展望もしきりに雪煙を飛ばしている動的な富士山にはかなわない。また富士山に目を奪われせっかく顔を見せてくれた山々を褒めるに至らず申し訳ない。

帰りかけた御堂の道路上に富士山が立っていた。富士山は何も云ってはくれなかったが、見送りに出てきてもらったように思えて、私はうれしくてならなかった。富士山とのさようならが、この山旅のすばらしい締めくくりになった。

1月16日　登山口7:35…水呑沢9:10…篠井山10:35～11:15…登山口13:25－東名・清水IC14:45－関ヶ原・八日市間チェーン規制－帰宅21:50

日山協の山岳保険について

昭和59年度山岳保険の第2次募集の申込みが下記のとおりありましたので報告いたします。

（昭和59年5月1日～60年4月1日掛金分）

烏丸　片岡秀明　　九条　大槻貞従、古市昌造

なお、未加入の方は下記の保険料をそえて事務局（職員課　人事係　三橋　TEL　2215）まで申込んで下さい。

申込み〆切	共済開始日　～　終　期	1名当りの掛金
6月15日	59年7月1日～60年4月1日	5,490円
7月15日	59年8月1日～60年4月1日	4,880円

白馬乗鞍と雪倉岳スキーツアー

三　橋　　勉

5月連休の3日早朝白馬御池駅前に着き、マイカーから路線バスに乗換えて親ノ原に到着。そしてアルプスゴンドラ「イブ」に乗ると20分で栂ノ森に到着した。下のゲレンデに雪がないのでここはスキーヤーがいっぱいでにぎやかだ。

今回のメンバーは2月に奥マキノスキーツアーに連れていただいた村上靴店の主人と京大の藤家先生、そして平井君に加えて熊笹会の今井会長、河野氏、八木氏他2名と京交から大槻氏の10名である。

9時すぎにシールをつけて歩く人、スキーの板にロープをつけて引っぱる人、リックに取付けてかつぐ人、それぞれおもいおもいのいでたちで出発する。5月になると雪もしまっていてツボ足で歩いても沈まないので快調に歩ける。神ノ田圃を過ぎて成城大ヒュッテ付近にやってくると、白馬乗鞍が大きく現われその先がガスで見えないのが残念である。

やがて天狗原への登りにかかるとスキー屋さんや、山屋さんの行列が一列に長く続いて登っているのがよく見える。最近はスキー屋さんも結構多くてヘリコプターで上る人もあるくらいである。約3時間程かかって天狗原に到着し、全員集合したところで昼食とする。白馬乗鞍が目の前にあり一列になって登る人が見受けられるが、あまり滑ってくる人を見かけない。我々も荷物をデポして約30分の登りに挑戦する。登りの途中、急にガスがかかって見透しが悪くなる時があったが、ヘリコプターの音だけがよく聞えた。そのヘリポートが広い山頂の南西にあった。三角点付近は岩がゴロゴロしていてあまり雪がついていなかった。やはり風で雪を吹き飛ばしてしまうのだろう。20分程山頂で休憩したのち、イヨイヨ待望の滑降である。

最初の間は雪質もよく回転がスムースであったが、だんだん下に滑って来ると雪が引っかかって転倒してしまった。私だけかと思ったら他の人達も同じ様に転倒したと聞き安心する。留守番の人に「お待たせしました」と挨拶してリックをかつぎ、いよいよレンゲ温泉に向け2時45分に出発する。56年3月以来久しぶりの懐しい中ノ沢に滑り込む。少しガスがかかり見透しが悪かったのであまり先に行かないよう遅い人を待ちながら進む。雪がもうひとつ悪いのか、寝不足で体調が悪いのかよく転倒する。それでも悪い雪を苦にせず上手に滑ってくる人があると、ついみとれてしまった。やはりコースの取り方もうまく悪い雪を感じさせない滑りなので何程上には上があるものだと感心する。それでもだんだん雪になれてきたと思ったらもうレンゲ温泉の近くの橋に到着。スキーをぬいで橋を渡り少し登って廻り込むとテント村があった。3時50分レンゲ温泉に到着。本日の疲れを温泉でいやす。

3月4日　快晴。めざす山はハッキリと新雪に輝いている。7時にレング温泉を出発。尾根の横

をトラバースぎみに廻り込むと小屋が建っていた。そこから少し行った地点で２人組に出合った。村上さんが知合いらしくお話をされている。後で聞くと高田貿易の社長とのことであった。今日は早朝のためかザラメ雪がよく締っていて滑りやすい感じである。またたく間に平馬の平へ滑り込んだ。少憩の後、いよいよ登る準備にかかる。昨日は引っぱって歩いたので、今日はリックに取り付けて歩くことにする。

7時５０分滝見尾根を登ると１５分で小ピークに到着して足の状態がよくないという村上さんと別れて瀬戸川の谷に滑り込む。8時１０分沢を登り始める。滝の横の斜面に入るとかなり急斜面となる。このあたりで9名がバラバラになり体力の差が出てくる。約2時間苦しい沢の登りから台地状の所へ出ると１０時すぎであった。何と広いことか、甲子園球場の何倍かある程の広さである。ゆっくり登ってくる人を待ちつつ大休止する。全員揃ったところで元気よく最後の登りにと、１１時半出発する。尾根に出るとさすがに稜線に風があり寒い感じである。雪もクラストしていて下りのスキーヤーがとまどっている感じである。

１２時５５分雪倉岳の山頂に立つ。標柱の端にエビのシッポがついている。展望が素晴しい。昨日登った白馬乗鞍から小蓮華、三国境そして白馬岳、旭岳、鉢岳、赤男山から朝日岳、遠く焼山、火打山、妙高山、黒姫山と360°の大展望である。平井君がホエーブスで温たかい飲み物をわかしてくれる。天候がよいので山頂でゆっくりして、いよいよ１３時５５分大滑降の始まりである。

クラストした尾根をさけて頂上から５０ｍ程行った地点から支尾根に滑り出す。5月と思えない程よい雪で大感激である。皆思い思いにシュプールを描いて滑っている。今まで苦労して登ってきたのがうそのようだ。兼用靴がよくスキーに乗ってくれて快適に滑っていく。広い斜面なのでどこまでも横に振っていくとなかなか下へ降りないので足がだるくなると思いつつ、キックターンや、ジャンプターンやボーゲンといろいろ試してみる。正にスキー滑降の醍醐味を思う存分味うように滑っていく。最高の気分である。天気が悪ければ迷うような広い大斜面である。

３０分程滑って全員休憩する。何しろ大斜面なので少し休まないと足がもたないというゲレンデでは味わえないぜイタクなお休みタイムとなる。こゝから谷に入るので少し緊張する。しかし登った急斜面を滑らず、途中から谷に滑り込むコースがあり、何とか全員無事に谷に滑り込めた。登っている時急な斜面と思っていたが、スキーで滑ってみると思ったより雪もゆるんでいてスピードが出ないので安心して滑れた。またたくまに登り始めた地点まできてしまった。

せっかくシールを持参したので帰りのトラバース道にはシールを付けて帰ることにしようと試みたが、雪が悪くてあまり効果が上らなかった。滝見尾根から平馬の平へ下らず、トラバースルートで尾根をまきながら小屋の前までくると、もう少しだと安心した。やがてレンゲ温泉の屋根が見え最後の登りとなり、ガンバッテやっとたどり着いた。１６時４９分着であった。この瞬間のビールの一パイの何とうまい事か、皆それぞれに大満足である。食事もうまい。楽しい山の話がはずむひとときである。

3月5日　今日も快晴。下山の日である。7時１５分レンゲ温泉をあとにし、スキーをかついで１０分程歩く。7時３０分スキーをつける。少し滑ってからヤッホー平を歩く。昨日登った感激の

雪倉がだんだん遠くなり、朝日岳が見えてくる。梅平から角小屋峠に向って１５分の最後の登りとなる。９時に角小屋峠着、雪庇の出ている尾根で休憩する。急斜面を下り長い斜滑降となる。下へ降りる程雪が悪くただ滑っているという感じとなる。それでも約２時間ばかり滑ると木地屋の部落に到着する。雪が除雪されていて道が滑れなくなり、雪がなくなるまで田圃を滑って５分程歩くとタクシー乗場に到着した。電話連絡をして３０分程待った。１人３００円なりの小型マイクロバスのようなタクシーで平岩駅に１時ごろ到着。車の所有者３名だけ白馬御池駅までトラックに便乗して車を取りに行ってもらった。その間に我々は昼食のための近くの食堂に入った。連休なので車の渋滞をさけて北陸まわりで帰ることにする。途中朝日町の手前のドライブインで、風呂付きタラ汁の夕食を食べて休憩の後、京都に夜中の１２時頃に帰ってきた。

金胎寺～笠置山

畑　　照　人

４月１９日（木）　雨

集印帳を整理していたら、南北朝遺跡巡りが出てきたので見ると地元附近が残っている。それで今日は金胎寺を選ぶ。鷲峰山△もついでに踏めるわいと、天候悪化の兆しもあったが出かける。京阪宇治駅へ着き、売店でバスの便を聞いていたらポツポツお下りである。少し早いね。宇治川畔は桜の最中。発電所近辺は特に良ろしい。ユキヤナギ（白）とレンギョウ（黄）と桜の紅、咲き残りの梅花…。今、我が世の春をうたっている感じ…。岩山で下車。村の人に尋ねて大道寺コースをとる。信西塚参詣。田原村を抜けて山道へかゝる頃から、少し雨量を増してきた。今更引返しもならず強引である。約２時間で寺の寺務所へ着く。集印が済んだ頃から一段と雨脚烈しくなってきた。寺守りさんに△はと聞くと「この雨では一寸無理だね。まだ笠置山が済んでないのね。それなら原山へ下って加茂駅から笠置へ行きなはれ。折角此所まで来たのやからなあ…。」残念ながら山を割愛。下山コースを教わり原山へ出る。このコース下り一方。反対ならば上り一方でこれは相当きつい。和束町で宇治茶の本場であり、山一帯は茶畑である。モノレールが設備されてあり、山道は作業車の為に簡易舗装がなされてある。この雨の中でも作業中であった。バス停で１．５時間待つ。待合室？で昼食をとる。

笠置駅と堤防の桜。長い寒さからヤッと開放されて咲いたと思ったら今日の雨。花に嵐とはよく言ったもの。憎らしい雨や、と地元商店街の人の声。今度の日曜日で花も終りかな。笠置山も中々急坂である。こんなにもしんどいのか。以前来た時はどうやったんやろうか。雨は尚烈しく降る。早々に集印して下る。またまた駅で１．５時間も待たされた。ともかく、ローカル線は待時間が多くて困る。木津駅乗換え、すぐ発車して京都駅着。電化されたので割合早く着いた。△は後日改めて登頂します。

四の参り

畑　　照　人

4月28日　晴

愛宕山月参拝の標題を変えました。余りにもマンネリ的？と考えましたので以後よろしく。昨年一回利用してとても好ましく感じましたので今日は此処からです。大杉谷道です。清滝川では河鹿の美声が聞こえ、山中では鶯の合唱？といよいよシーズン到来です。もう初夏ということですね。日射しも暑く感じました。所要時間2時間15分で神社着。気温14°です。下界では24°でしたから約10°も涼しいのですね。三角点の危機として、大槻さんに写真を見せたら「これは無茶やね。全くひどいもんだ。」今日は広角を用意して別の角度から写して来ました。

三角点からコブシの花咲く山の斜面がよく見えました。今日見かけた花々は次の通りです。ツツジ、ショウジョウバカマ、スミレ、マムシグサ、ムラサキケマン、ミヤマカタバミ、スカンポ、アザミ（新葉だけ）、タケニグサ、フキ。

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1481	音羽山から竜門岳	4月12日	晴	大倉寛治郎	坂田　利春 奥村　弘信 重田　晋助	久しぶりにマイカー登山ではなく、電車で出発点から徒歩コース15.4Kmを歩いてきました。 次号報告
1482	大江山集中登山	4月15日	晴	岡田　茂久	普甲峠コース	鷲見F1、田中F2、辻、井戸　7名
					千丈ケ原コース	岡田、津田、松井、石田、渡辺智、和田、方山、原田荒田、奥村　10名
					双峰コース	大槻F3、古市、上鼻F1　7名
					3コースに別れて大江山山頂に集結した。	別稿報告

1483	三峰山	4月25日		河村　清		都合悪く中止する。
1484	春スキー 立　山	4月28日 ～30日	晴	広瀬光太郎	川原　傳治 他2名	今年は残雪が多く快適なスキーを楽しんできた。　次号報告
1485	利尻トレーニング 地蔵山	4月29日	晴	（吉田武）	吉田夫人、F3、鷲見山村、方山渡辺朋、三橋、荒田夫妻	担当の吉田君が参加できなかったが、その変りに奥さんが坊やをおんぶして子供と共に参加して下さり、北海道へ行く人も行かない人も元気にトレーニングにはげみ、休憩なしで神社まで2時間で到着した。昼食の後、三角点により地蔵山まで藪コギをしてきました。
1486	（変更） 三国岳	5月　5日	晴	大槻　雅弘	大槻F4 吉田F4 和田、古市	笈ケ岳スキー登山を予定していたが、変更して、霊仙山と鈴鹿の御池岳との間にある三国岳に登ってきた。　次号報告

雑　　報

5月集会報告

5月10日　　下鴨寮

出席者　OB　奥村弘信、伊藤潤治、　高速　岡田茂久　　鳥丸　大倉寛治郎

本局　鷲見敏一、渡辺朋子、三橋　勉、方山宗子、大槻雅弘

梅津　吉田　武　　九条　古市昌造、大槻貞従、上島和彦　　洛西　広瀬　烈

例会報告のあと、寒かった雪の季節もやっと終り、ゴールデンウイークとなって、個人山行の報告も多く、その後の例会や記念例会の打合せの合間に本課支部主催の「森林浴」について長谷川支部長の挨拶等があり、またたく間に時間がすぎてしまいました。

部費受領

59年度分

OB　近藤　薫、森下村重、伊藤潤治、中村維源、牧　定夫、田中定勝、山村敏郎、畑　照人
王生そと、石田和男、山下周道、坂井久光、奥村弘信、河村　清、南口雪男、津田　実
東　昭次、谷尾嘉津子、北林修一

市役所　中山忠之、木原　滋　　鳥丸　台川敦美、大倉寛治郎、坂田利春

高　速　篠田勝美、今井武夫、中島孝生、矢野　聡

〔入　部〕　本局　山口雅直　S32.8.8生　（B型）

山．大塚北溝町45　テヤシキ大東103号

高速　河合秀晃　S36.3.1生　（O型）　TEL 0726 33-8462

茨木市水尾3丁目8番19号

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL801−5331(代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321−0251

愛されるスポーツ店

京菱運動具店

本店　下京区大宮通松原上ル
TEL(801)1331
十条店　南区竹田街道十条上ル東側
TEL(691)8041
伏見店　伏見区伯耆町西友ストアー4F
TEL(623)0824
山科店　山科区音羽野田町0番
西友ストアー山科店
TEL(592)9770内線228

一年中、山用品だけの
プロショップ

おかげさまで創業5周年を迎え、
店も大きく、商品も充実させて
頂きました。もちろん開店以来の
全品徹底バーゲン価格も続行中！

LOG CABIN
ログ ケビン
京都市中京区[illegible]
☎(075)221−7569　〒604
([illegible])

真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい
確信ある用具を
確信ある価格で・・・・

好日山荘
河原町六角下ル東入
TEL 241−1731

山の本

山岳書電話ノ本にて
無料配送

ゆかり書房
075(801)8333

昭和59年6月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内
京交山岳部

お知らせ
今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。
改築期間中（約1年間）は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

チロル

移転先　本店2階
京都市中京区西ノ京円町24
ダイヤ運動用品株式会社

HORIUKE KYOTO
まかせて下さい…ネ
山とスキー
のことなら…

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具は ゼヒ 御相談下さい
山とスキー専門店
ビッグ ホリイケ
河原町店　上・河原町通丸太町東入
TEL 222－0363

御婚礼
御引越
ぎおん菊水
専門
ぎおん菊水運送株式会社
山科配車センター
京都市山科区西野山階町12－12
TEL (075)581－3101
本　社
東山区大和大路通四条下ル　541－2345
鴨川営業所
中京区室町二条上ル　256－3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品
贈答品総合センター
厚生会指定
サンコー クラフト
西島輝雄
左．川端通丸太町下る下堤町88
TEL (075)771－3442

山とスキーの店
京都 あるむ
京都市中京区新町三条上ル
075－255－0288

HIKE & CAMP
この用具の事ならコニシが一番です！
御来店ありがとうございます
山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして
海の
コニシ
中・二条通河原町西　TEL 231－1202